

11. Case Report 誌編集委員会

委員長 碓 氷 章 彦

1. 出版契約について

Surgical Case Reports は、平成 27 (2015) 年 1 月 17 日に創刊し、6 年目に入った。

令和 2 (2020) 年 8 月 17 日より、掲載料 (Article Publishing Charge) を著者負担分 230 ユーロから 460 ユーロ (日本円約 60,000 円) へと変更した。論文の投稿状況は、令和 2 (2020) 年に 691 編となった通り、著者負担分を増額しても、それほど影響を受けていないと思われる。

2. 契約本数について

年間の契約掲載数は、著者負担を 460 ユーロ (日本円約 60,000 円) に変更した結果、244 編程度が可能となった。

3. 令和 2 (2020) 年優秀論文賞 (Best Surgical Case Reports Award) について

隔年に優秀論文賞を選定することとなっているので、今年選定した。基準については、Citation 数 1 回 ~ 6 回 / Download 数 600 回以上を条件としている。今回は、2018 年から 2019 年末に出版された論文を対象とし、下記の通り選定した。

【第 2 回優秀論文賞授賞者】

心臓血管 (1 名)

川野まどか (大分大学医学部附属病院心臓血管外科)

A case of ruptured aneurysm of coronary-pulmonary artery fistula diagnosed after emergency thoracotomy (2018) 4: 24

上部消化管 (2 名)

栗田 大資 (国立がん研究センター中央病院食道外科)

Non-occlusive mesenteric ischemia associated with enteral feeding after esophagectomy for esophageal cancer: report of two cases and review of the literature (2019) 5: 36

川副 徹郎 (九州大学大学院消化器・総合外科)

A case of mixed adenoneuroendocrine carcinoma (MANEC) arising in Barrett's esophagus: literature and review (2018) 4: 45

下部消化管 (1 名)

諸 和樹 (新潟大学大学院医歯総合研究科消化器・一般外科学分野)

Left colic artery aneurysm rupture after stent placement for abdominal aortic aneurysm associated with neurofibromatosis type 1 (2019) 5: 12

肝臓 (1 名)

湯川 恭平 (九州大学大学院消化器・総合外科)

Primary intrahepatic cholangiocarcinoma with sarcomatous stroma: case report and review of the literature (2018) 4: 138

胆膵 (1 名)

木下 正彦（大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵外科学）

Occupational cholangiocarcinoma diagnosed 18years after the end of exposure to 1,2-dichloropropane and dichloromethane at a printing company: a case report (2019) 5: 65

呼吸器（1名）

花岡 孝臣（JA 長野厚生連北アルプス医療センターあづみ病院呼吸器外科）

Pulmonary adenocarcinoma possibly developed from the cut-end of small-sized adenocarcinoma in the lung periphery as recurrence 13 years after its wedge resection (2018) 4: 2

乳腺（1名）

倉田加奈子（北九州市立医療センター外科）

A case of primary extraskeletal osteosarcoma of the breast (2018) 4: 121

小児（1名）

新開 統子（筑波大学医学医療系小児外科）

A rare mechanism of delayed splenic rupture following the nonoperative management of blunt splenic injury in a child (2018) 4: 75

救急（1名）

伊達健治朗（藤元総合病院）

Laparoscopic treatment of intestinal obstruction due to a vitelline vascular remnant and simultaneous appendicitis: a case report (2018) 4: 105

4. Best Reviewer Award 選定について

Surgery Today と同様に、一度授賞した先生は、5年間授賞できないとの方針に従い、既に授賞された先生を除き、第4回 Best Reviewer Award は、下記の通り決定した。

【第4回（令和2年度）Best Reviewer Award 授賞者】

- ・久保 真（九州大学大学院臨床・腫瘍外科）
- ・宮城 久之（旭川医科大学外科学講座血管・呼吸・腫瘍病態外科）
- ・溝渕 輝明（千葉県済生会習志野病院呼吸器外科）
- ・藤田 文彦（久留米大学外科学講座消化器外科）
- ・橋本 大輔（関西医科大学付属病院胆膵外科）
- ・美馬 浩介（熊本大学消化器外科）

5. Scopus について

委託先の Springer 社から、エルゼビア社の学術文献のデータベースである Scopus に Surgical Case Reports を登録申請したが、収載されない結果となった。

6. ジャーナルについて

ジャーナルタイトル：Surgical Case Reports

出版形式：オンラインジャーナル，オープンアクセス出版

出版頻度：年1巻（採用順にオンライン出版）

掲載内容：Case Report, Letter to the Editor

出版開始：2015年1月17日

出版費用：Article Publishing Charge（APC）

2020年8月17日（月）投稿分より本学会会員は

掲載料 460 ユーロ（日本円約 60,000 円）

非会員は 1,250 ユーロ

電子投稿査読システム Editorial Manager

(<http://www.surgicalcasereports.com/>) より投稿

投稿に関する詳細については, Surgical Case Reports

(<http://www.surgicalcasereports.com/>) の Submission Guidelines (投稿規定) を参照

Surgical Case Reports
論文投稿・審査状況報告

2021年2月2日更新

1. 論文種類別 投稿数 (投稿日による集計)

Article Type	2014 Total	2015 Total	2016 Total	2017 Total	2018 Total	2019 Total	2020 Total	2021 YTD
Case Report	118	479	400	421	407	442	689	69
Letter to the Editor	0	3	0	0	1	4	0	0
Editorial	2	0	0	0	0	0	2	0
Total	132	504	413	421	408	446	691	69

2021 年月別投稿数

Month	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
submission	66	3										

2020 年月別投稿数

Month	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
submission	44	45	76	69	89	77	55	52	53	42	35	53

2. 国別 投稿数 (投稿日による集計)

Corresponding Author's Country	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
JAPAN	62	256	358	376	354	358	592	58
QATAR	0	0	0	0	0	0	0	2
CHINA	4	6	1	4	5	6	13	1
COLOMBIA	1	1	0	0	1	2	1	1
GERMANY	0	2	2	1	1	4	6	1
GREECE	1	3	0	0	1	2	0	1
INDIA	14	73	16	3	2	7	5	1
ITALY	4	12	1	2	0	2	3	1
MOROCCO	1	2	2	3	2	2	3	1
NEPAL	0	0	0	1	2	0	0	1
SWITZERLAND	0	0	0	0	0	0	3	1
SYRIAN ARAB REPUBLIC	0	0	3	2	2	4	0	1
TURKEY	6	21	2	2	2	2	1	1
UNITED STATES	6	18	4	5	8	11	23	1

2021年：全投稿に占める日本人投稿の割合：84.0% (58/69)

3. 論文種類別 判定結果と採択率 (最終判定日による集計)

Reject 数のカッコ内の数値は Immediate Reject 数 採択率のカッコ内の数値は審査に回った論文の採択率

Year	Article Type	Case Report	Letter to the Editor	Editorial	Total
2015	Accept	114	1	0	115
	Reject	349(237)	2(1)	0	351
	Accept Rate	24.60%(50.4%)	33.30%	NA	24.70%
2016	Accept	156	0	0	156
	Reject	243(147)	0	0	243
	Accept Rate	39.10%(61.9%)	NA	NA	39.10%
2017	Accept	128	0	0	128

	Reject	290(234)	0	0	290
	Accept Rate	30.60%(69.60%)	NA	NA	30.60%
2018	Accept	144	1	0	145
	Reject	174 (69)	0	0	174
	Accept Rate	45.5%(59.2%)	NA	NA	45.5%
2019	Accept	221	1	0	222
	Reject	203(65)	2(1)	0	205(66)
	Accept Rate	52.1%(61.5%)	33%	NA	51.9%
2020	Accept	315	2	0	317
	Reject	301	0	0	301
	Accept Rate	51.1%	100%	NA	51.3%
2021	Accept	22	0	0	22
	Reject	34	0	0	34
	Accept Rate	39.2%	0	0	39.2%

4. 国別採択数（最終判定日による集計）

Author's Country	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
JAPAN	13	105	146	126	139	209	300	22
UNITED STATES	0	0	2	1	1	4	6	0
CHINA	0	0	0	0	0	0	2	0
INDIA	0	2	0	0	0	1	2	0
AUSTRALIA	0	1	1	0	3	1	1	0
COSTA RICA	0	0	0	0	0	0	1	0
GERMANY	0	0	2	0	1	1	1	0
IRELAND	0	0	0	0	0	0	1	0
ITALY	0	2	0	0	0	0	1	0
SAUDI ARABIA	0	0	1	0	0	0	1	0
YEMEN	0	0	0	0	0	0	1	0
Total	13	115	156	129	145	222	317	22

2021 年全アクセプトに占める日本人投稿の割合：100%（22/22）

5. 国内・外 判定結果と採択率（最終判定日による集計）

		JAPAN	Overseas	Total
2015	Accept	105	10	115
	Reject	139	212	351
	%Accept	43.0%	4.50%	24.70%
2016	Accept	146	10	156
	Reject	196	47	243
	%Accept	42.7%	17.50%	39.10%
2017	Accept	126	2	128
	Reject	254	36	290
	%Accept	33.2%	5.30%	30.60%
2018	Accept	139	6	145
	Reject	146	28	174
	%Accept	48%	17.64%	45.45%
2019	Accept	209	13	222
	Reject	159	46	205
	%Accept	56%	22%	51.9%
	Accept	300	17	317

Adrenal gland	2	100%		0%	1	50%	0	0%		
Anus	2	29%	2	67%	1	14%	4	33%		
Bile ducts/Gall bladder	8	27%	4	11%	22	55%	23	34%	1	20%
Breast	6	24%	9	33%	7	47%	19	31%	4	
Cardiovascular	8	25%	12	30%	19	38%	13	19%		0%
Colon/Rectum	15	23%	32	38%	41	53%	64	34%	4	36%
Emergency	10	19%	19	30%	34	56%	38	28%	1	8%
Esophagus	15	50%	14	50%	19	56%	30	37%	1	
Genetics	2	50%	2	40%	1	17%		0%	1	
Liver	23	37%	25	54%	28	46%	48	38%	4	44%
Lung/Mediastinum	20	34%	21	36%	40	75%	35	32%	2	17%
Medical Oncology	18	51%	11	37%	14	34%	26	36%	1	17%
Pancreas	13	25%	12	34%	23	48%	37	35%	4	
Pathology	15	38%	23	61%	16	42%	30	37%	3	38%
Pediatric surgery	5	20%	5	29%	14	45%	19	35%	1	20%
Plastic surgery	1	20%	5	38%	3	25%	3	15%		0%
Portal hypertension	1	50%	1	50%	1	100%	4	33%	1	
Radiation Therapy	3	60%	2	25%	2	50%	1	14%		
Stomach/Duodenum	18	34%	14	28%	33	42%	54	36%	3	38%
Thyroid/Head and neck	2	33%	3	27%	3	30%	6	27%		
Vascular (peripheral/vein)	5	24%	5	23%	16	50%	11	24%	3	43%

※1 論文で複数のカテゴリーを選んでいる場合は全てのカテゴリーをカウント

12. 臨床研究推進委員会

委員長 宇山 一朗

委員会を11月13日に開催し、臨床研究助成の選考や今後の臨床研究セミナー（E-learning化など）の検討を行った。

1. 臨床研究助成について

「日本外科学会臨床研究助成」（500万円×1件）と「若手外科医のための臨床研究助成」（100万円×5件）の評価方法を検討した。

【日本外科学会臨床研究助成】

- ・従来通り、委員全員で1題採択した。

【若手外科医のための臨床研究助成】

- ・申請者が申請された分野（その他や分野横断的なものは、委員長、副委員長の判断で該当する分野を判断する）に基づき、昨年同様、分野毎にベスト課題を1-2題選定（1次審査）し、その後、委員全員で5題採択（2次審査）した。
（分野毎の諾否ではないため、授賞は選択分野に影響されない旨記載している）

2. 臨床研究助成「日本外科学会臨床研究助成」（500万円×1件）、「若手外科医のための臨床研究助成」（100万円×5件）の選考を行った。なお、授賞式は未定である。

【日本外科学会臨床研究助成】（JSS Clinical Investigation Project Award）授賞者 1名

- ・日比 泰造（熊本大学大学院生命科学研究部小児外科学・移植外科学講座）
「切除不能な肝門部胆管癌に対する生体肝移植」

【若手外科医のための臨床研究助成】（JSS Young Researcher Award）授賞者 5名（五十音順）

- ・梅田 晋一（名古屋大学大学院医学系研究科・消化器外科学）
「ゲノム編集技術を用いた胃癌肝転移の分子機序解明と治療法の開発」
- ・北野 雄希（熊本大学病院次世代外科治療開発学寄附講座）
「肝細胞癌におけるがん代謝と腫瘍免疫応答機序の解明」
- ・鳥垣 智成（九州大学大学院消化器・総合外科）
「生体肝移植後 肝細胞癌再発の新規バイオマーカーの探索」
- ・波多 豪（大阪大学大学院医学系研究科外科学講座消化器外科学）
「大腸癌におけるエピゲノムを標的とした新規治療開発と免疫チェックポイント阻害への応用」
- ・松島 峻介（神戸大学大学院医学研究科心臓血管外科学大学院生）
「模擬循環回路とレーザー照射による血流可視化を用いた大動脈弁および小口径弁付き右室-肺動脈導管の流体工学的解析」

3. 臨床研究セミナーの重要性を鑑み、春と秋に2回開催していたが、第120回定期学術集会の完全Web開催に伴い、第24回臨床研究セミナーについて、E-learningにて開催した。

また、来年度以降も臨床研究セミナーは集合形式ではなく、すべてE-learningとして開催することとし、原則として臨床統計に関する講義×30分と、臨床研究の実践に関する講義×30分をセットとし

て、計60分という内容にすることとした（専門医制度の共通講習の1単位分に該当）。ただし、秋季開催分は日本臨床外科学会との共催となるため協議が必要となる旨を確認すると共に、これまで臨床研究セミナー内で行っていた各種授賞式などの代替は継続審議とした。

4. NCD データを活用した臨床研究は、複数の領域のデータベースを横断したプロジェクトの場合は、当該領域の学会の了承を得た上で、共同研究としてNCDに申請することとなっている。将来的に研究課題が増えれば、その手続きが煩雑となり、負担が掛かることになるので、複数の領域に跨る共同研究を出来る限りスムーズに行えるような包括的な枠組みを構築するために、平成28年度より、NCD データを利用した複数領域で行う研究の審査窓口は、本委員会に、各領域の学会とNCDの代表者が加わった拡大的な組織（NCD臨床研究推進委員会）が務めることとし、その審査結果を各領域の学会に持ち帰って検討してもらい、2か月以内を目途に回答してもらう方針を採ることとした。

本年度募集したところ、日本小児外科学会より「日本小児外科学会認定施設および非認定施設における小児急性虫垂炎手術の術中合併症と予後」の1件の申請がなされ、各領域の学会にデータ利用の許諾や協力の可否について検討依頼し、承認を得たため、その旨NCDに回答し、現在、申請者とNCDで実現可能性について検討中である。

1) 利益相反委員会

委員長 宇山 一朗

本委員会は、外科研究の利益相反に関する指針に基づき、役員等から提出された利益相反自己申告書の管理、利益相反自己申告書に対して、疑義もしくは社会的・法的問題が生じた場合の対応等を目的としている。

役員等の利益相反自己申告書対象233名全員から提出され、特に問題が生じるものはなかった。

役員等の利益相反自己申告書は本学会事務所に厳重に管理している。

また、日本医学会より、日本医学会COI管理ガイドラインの一部改定の報告を受けたことから、本学会でも対応が必要か否かについて、検討するところである。

13. 国際委員会

委員長 大木 隆生

1. 外国人名誉会員について

外国人名誉会員の推薦について、第1号議案で報告のあったJ. Jan B. van Lanschot先生とJohn L. Cameron先生を推薦した。

2. 若手外科医の学術交流制度（旅費給付）について

American College of Surgeons (ACS) と German Society of Surgery (GSS) とは、それぞれの学術集会にお互いの学会から推薦のあった若手外科医を1名ずつ招聘し、学術発表の機会を与える交流である。

【ACS】

本会からACSへの出席予定者

→田中 真之 正会員（川崎市立川崎病院外科）

ACS から定期学術集会への出席予定者

→ Daniel I-Hsin Chu 先生

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大の影響により中断しているが、次回の現地開催時には交流を再開する予定である。

【GSS】

本会から GSS への出席予定者

→奥野 将之 正会員（京都大学肝胆膵・移植外科）

GSS から定期学術集会への出席予定者

→ Sven Arke Lang 先生

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大の影響により中断しているが、次回の現地開催時には交流を再開する予定である。

3. 各国際学会代表講演について

学術集会で各学会の代表者の講演を行っているが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大の影響を受け、以下のとおりとなった。

【American College of Surgeons（ACS）】来年度へ持ち越し

【German Society of Surgery（GSS）】来年度へ持ち越し

【Society of University Surgeons（SUS）】来年度へ持ち越し

【British Journal of Surgery Society（BJS）】来年度へ持ち越し

【Royal College of Surgeon（RCS）】来年度へ持ち越し

【College of Surgeons of East, Central and Southern Africa（COSECSA）】Godfrey Ignatius Muguti 先生

【The Association of Surgeons of India（ASI）】Raghu Ram Pillarisetti 先生

4. Society of University Surgeons（SUS）との交流について

Academic Surgical Congress（SUS と AAS の合同年次総会）では、本会から 10 演題が受け入れられており、国際委員会が交流の窓口となっている。本年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により見送られた。なお、ASC の参加費は本会で負担することとしている。

5. ドイツ外科学会との交流について

ドイツ外科学会とはお互いの学術集会において、ジョイントシンポジウムを開催しており、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大状況を注視しつつ、第 122 回定期学術集会で実施予定である。

6. 英国外科学会 International Surgical Training Programme（ISTP）について

英国の Royal College of Surgeon との交渉により、本会が、「International Surgical Training Programme（ISTP）」の partner Institution に指定されている。

ISTP とは英国以外の若手外科医師が、英国各地の病院の外科、外傷外科、救急を含む様々な診療科で臨床研修が出来る制度で partner Institution の推薦を必要としている。

ISTP の期間は、1～2 年間英国の病院で registrar（後期研修医）として勤務し、英国人医師と同等の研修プログラム内容と待遇（年収 800～1,000 万円）が受けられ、外科臨床研修に加えて、リーダーシップ、マネージメント、ガイドライン作成、研修推進、臨床ガバナンスそして英国 National Health Service（NHS）

の仕組みの教育をする事を目的としている。

第1期生（平成29年）は、田村 亮 正会員（高島市民病院外科；小児外科）がIELTSをクリア（Overall 7.5点以上・各項目7.0点以上）し、平成30年8月よりNewcastle大学（The Great North Children Hospital）で研修が開始されている。委員長と田村正会員が進捗状況を確認する面談をした結果、英国での研修が順調（指導体制、症例数や給与面）に進んでいることが確認された。

第2期生（平成30年）と第3期生（平成31年）では、以下の5名がIELTSをクリアしているが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により研修先の選考が遅れている。

西村 公男 正会員（大和高田市立病院外科）

佐藤 力弥 正会員（虎の門病院消化器外科）

北田 智弘 正会員（大阪市立大学小児外科）

遠藤 睦子 正会員（Radboud University Medical Center Surgical Oncology）

関岡 明憲 正会員（静岡県立こども病院小児外科）

※第4期生（2名）は、IELTSのクリアを目指している。第5期生は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により公募をしなかった。

7. アフリカとインドとの交流について

将来計画委員会「国際化推進」ワーキンググループにおいて、アフリカとインドを中心に国際交流を促進することを検討してきたが、まずはアフリカのCOSECSAとインドのASIの会長を学術集会に招待することを開始している。

そこで国際委員長がこれら学会に参加し、以下の事を先方理事会と決定している。

COSECSA 学会について：

国際委員会委員長がウガンダ国Kampala市で開催された第20回年次総会（2019年11月30～12月6日）に参加しCOSECSA理事会で日本外科学会の紹介とともに本会の案（会長の招請、若手トラベルグラント、ジョイントセッション等）をプレゼンテーションし、具体的なプランを以下の通り策定した。また、現地の病院を視察しウガンダ国の医療レベルとニーズを探った。

- 1) 第121回定期学術集会にCOSECSA会長（Professor Godfrey Muguti, Zimbabwe）を招請し講演を依頼した。講演タイトルは“Impact of COVID19 on surgical services and training in the COSECSA region”
- 2) 上記と同様、第121回定期学術集会にCOSECSA選出の若手外科医3名に本会がトラベルグラントを支給し、発表の機会を提供する予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により延期となった。アフリカ・COSECSA学会選出のTravel grant受賞者は次の通り。① Dr. Precious Mutambanengwe, ② Dr. Orgenes Mbwanbo, ③ Dr. Christophe Mpirimbanyi.
- 3) 上記アフリカの若手外科医に来日した際に日本の施設見学の機会（一週間程度）を提供する。
- 4) 以下は継続審議事項

①日本の若手外科専門医がCOSECSA加盟14カ国のいずれかの国で診療支援をする可否、詳細について審議した。手続きを経れば法律上も医療訴訟上も問題はなく、双方にとってメリットのあるプランである事を確認。（日本の若手外科医にとっては開胸・開腹手術の機会）

②今後、双方/いずれかの年次総会で開催するジョイントセッションは共通テーマを見つけることの難しさから継続審議とした。

なお、委員長が視察した2つの病院はまさに野戦病院で人材、機材も物資も不足しており我々外科医が出来ること以前の問題（公衆衛生、感染症対策など）が山積している事を確認した。

インド外科学会について：

国際委員会委員長がインド国，Bhubaneswar 市で開催された第 79 回 ASICON（2020 年 12 月 18～21 日）に参加した。招請講演（Aortic Arch Aneurysm repair in Japan：Present and Future）を発表するとともに ASI 前会長，現会長らと面談した。面談では本会の案（会長の招請，トラベルグラント，ジョイントセッション，人的交流等）をプレゼンテーションし，具体的なプランを以下の通り策定した。また，学会中に行われていたレジデントコンペティションにも参加した。

- 1) 第 120 回では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により延期となっていたため，第 121 回定期学術集会に ASI 会長（Professor P. Raghu Ram）を招請し講演を依頼した。講演タイトルは“Setting a benchmark for Breast healthcare in India”
- 2) 上記と同様，第 121 回定期学術集会で ASI 選出の若手外科医 3 名に本会がトラベルグラントを支給し，発表の機会を提供する。インド全土から選出された上位 12 名の外科レジデントが審査員の前で症例と治療計画を提示しつつ審査員が厳しい質疑応答をする（一人 40 分）。このコンペティションの上位 3 名は以下の通りで来日が決定。なお，今後はインドの外科専門医試験の日程の都合上コンペティションの翌年の外科学会に参加する事とした。
① Dr. Reshma Balachandran, ② Dr. Priyanka Saha, ③ Dr. Nidhin Punathil Narayanan
- 3) 上記 2) で選出された 3 名の若手外科医に，来日した際に日本の施設見学の機会（一週間程度）を提供する。
- 4) 今後，双方/いずれかの年次総会でジョイントセッションを開催する事に関しては前向きに検討する。